

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

中学生部門

最近、母とのすれ違いが多くなった。夜遅くまで仕事をしている母は、帰宅するのとどことなく疲れているように見え、話をする機会もめっきり減った。そんなある日、寝付けず居間へ出てくるお母はそこで僕の服を直してくれていた。知らないところで母は...

てくれていて、なんだか少し嬉しかった。母のやさしさを改めて感じることができた。

小さな思いやり

マンガ/山崎晋

注目!

夢育ポイント

「中学生の子どもにどう関わっていいのかわからない」といった保護者の声をよく聞きます。構い過ぎるとうっとうしがられ、だからといって、放っておくと愛されていないと文句を言われたり・・・、本当に難しいですね。思春期以降の子どもには、「あなたのことを気にかけてるよ」と、どこで伝えるかがとても重要になってきます。そこで、ヒントになるのがこの日記！この日記では、ズボン直す母の姿に、主人公が「忙しくてもちゃんと自分のことを見てくれるんだ」という愛情を感じています。思春期は、たまに見せる親の愛情が心に突き刺さりませす。いつもじゃなくていいので「ここ！」っていうタイミングで、子どもへの愛を伝えてみませんか。（中山芳一）